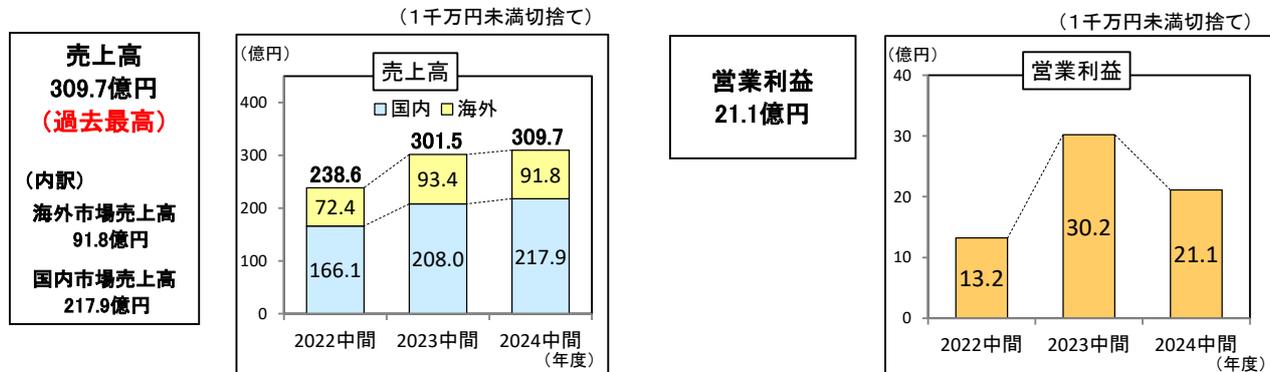


アイホン株式会社 2025年3月期中間決算(連結)のポイント

売上高 国内・海外の両市場において、前年同期の受注残・バックオーダーの解消に伴う一時的な売上増加の反動減が見られたものの、国内集合住宅市場の賃貸マンション向けリニューアルを中心に売上が大幅に増加し、中間決算では過去最高となりました。

利益 増収による増加はあるものの、開発費等の経費の増加や為替の影響により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益はすべて大幅に減少いたしました。



〔売上〕

国内市場全体で9.9億円の増加(前年同期比 4.8%増加)

◆住宅市場

前年同期の商品供給の安定化に起因する一時的な売上増加の反動により戸建住宅市場は減少したものの、賃貸マンション向けを中心に、集合住宅市場のリニューアル売上が大幅に増加。

住宅市場全体として11.2億円の増加。(前年同期比 7.0%増)

戸建住宅市場

- ▲前年同期の商品供給の安定化に伴う一時的な売上増加の反動減。
- ▲販売強化に努めたものの住宅着工戸数の減少が影響し、新築売上が減少。

集合住宅市場

- ◎リニューアルにおけるセキュリティニーズは高水準を維持。
- ◎賃貸マンション向け商品『PATMO α』を中心にリニューアル売上が好調に推移。
- ▲当社の納入時期にあたる住宅着工戸数が減少し、新築の分譲マンション向けの売上が減少。

◆ケア市場

「見守り支援」ニーズに対応する課題解決型提案が奏功し、高齢者施設や高齢者住宅向けの売上が増加したものの、リニューアルでは前年同期の販売水準に至らず売上が減少。

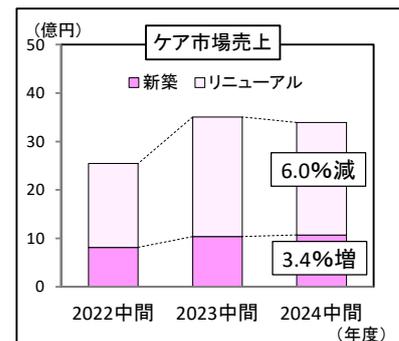
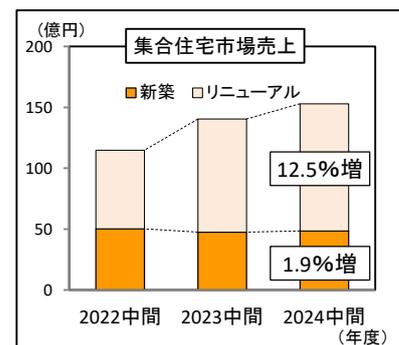
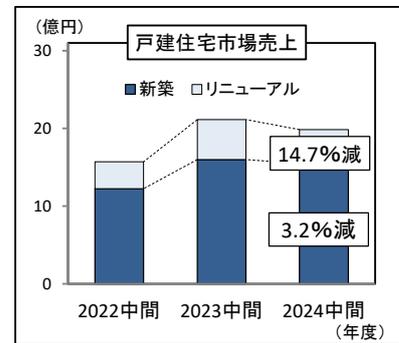
ケア市場全体として1.1億円の減少。(前年同期比 3.2%減)

ケア新築市場

- ◎医療・介護従事者不足の解消に向けた「見守り支援」ニーズを背景に、高齢者施設向けの販売が好調に推移。
- 病院向け小規模案件が増加。

ケアリニューアル市場

- ◎病院、施設等で「見守り支援」ニーズが高水準を維持。
- ▲前年同期の商品供給の安定化に伴う一時的な売上増加の反動減。



国内市場

戸建住宅市場、ケア市場を中心に、前年同期の商品供給の安定化による一時的な売上増加の反動減が生じたものの、集合住宅市場の賃貸マンション向けリニューアル売上が大幅に増加したこと等により、国内市場全体で前年同期比 4.8%の増加。

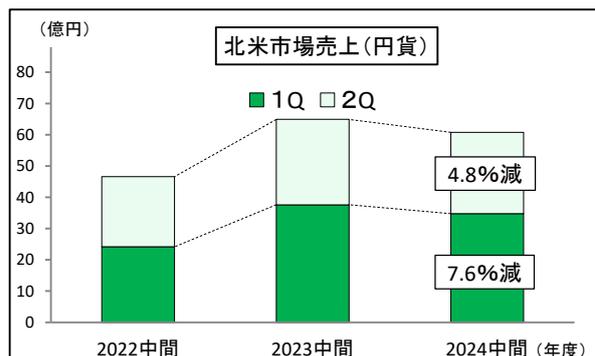
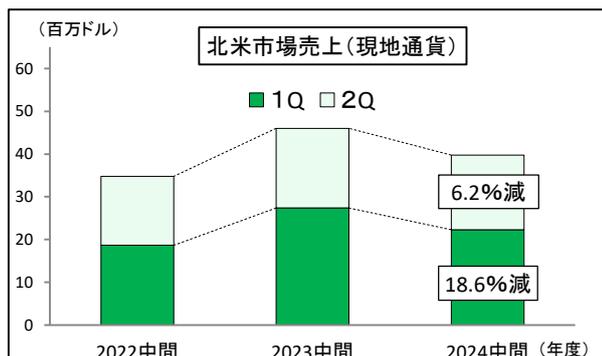
海外市場全体で1.6億円の減少(前年同期比 1.8%減)

◆北米市場 現地通貨ベースで減少(前年同期比 13.6%減) 円貨ベースでは4.1億円の減少(前年同期比 6.4%減)

◎小・中規模案件へのテレビドアホンの販売が好調に推移。

▲集合住宅市場の中心である東海岸都市部において、競合企業からの価格攻勢が激化し販売が苦戦。

▲前年同期のバックオーダー解消による売上増加からの反動減。



◆欧州市場 現地通貨ベースで増加(前年同期比 3.9%増) 円貨ベースでは2.4億円の増加(前年同期比 12.4%増)

フランス

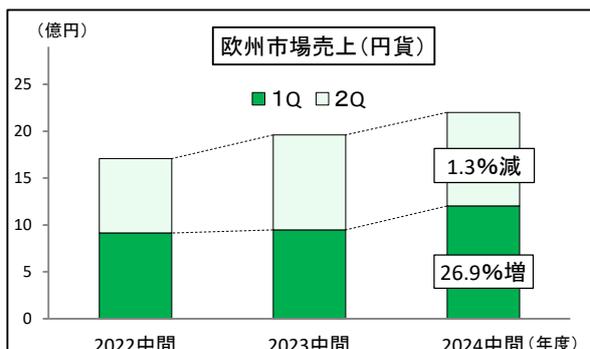
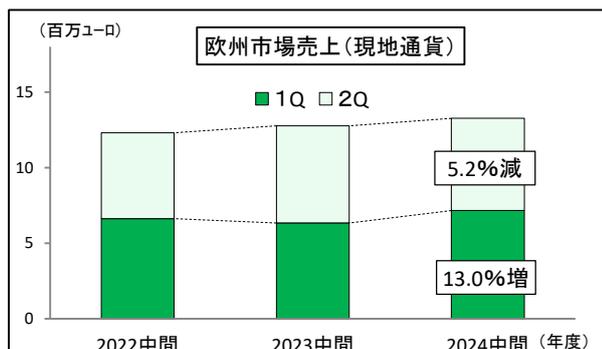
◎業務市場に向けたソリューション提案を強化したことが奏功し、IPネットワーク対応インターホンシステムの販売が好調に推移。

○欧州経済の停滞は緩やかな回復基調。

▲戸建住宅市場の新築着工戸数が大幅に減少するとともに、パリオリンピック開催の影響により2Q前半において多くの物件動向が停滞。

イギリス

▲集合住宅市場は販売が好調に推移したものの、IP化のニーズが高まる業務市場でのIPネットワーク対応システムの競争環境が激化し販売が減少。



海外市場

主力の北米市場において、前年同期のバックオーダー解消による反動減とともに、価格改定前の駆け込み需要の影響による一部商品の販売の鈍化等が影響し、現地通貨ベースでは売上が減少。円貨ベースでは為替の影響により北米市場の売上に好影響を及ぼしたものの、海外市場全体の売上高は前年同期比1.8%の減少。

〔利益〕

営業利益 9.0億円の減少(前年同期比 29.9%減)

経常利益14.3億円の減少(前年同期比 40.9%減)

親会社株主に帰属する中間純利益9.4億円の減少(前年同期比 35.8%減)

▲売上高が増加したものの、開発費等の経費が大幅に増加。

▲為替の影響により営業外損益で為替差損が発生。